

第 23 回 アルコール健康教育研修会

鈴木 基泰

日時：平成 25 年 8 月 16 日（金） 9:55～16:30

場所：東京都立東高等学校しおさいホール

基調講演：アルコールと健康

東邦大学名誉教授 杉本 元信

アルコールによる健康障害は肝臓病だけではなく、循環器系・消化器系・癌・うつや認知症など多岐にわたって悪影響を起す。

肝臓内科医として、アルコール性肝障害についての講義に加え、最近多い非アルコール性肝障害についても講義があった。非アルコール性肝障害は、肝臓におけるメタボリックシンドロームである。

研究講演：実験から見たアルコールの影響

山野医療専門学校教頭・元東邦大学医学部講師 今井 常彦

まずアルコールの医学について、化学的特性、酔いの過程、二日酔いの原因、健康的な飲み方について講義。

その後、ラットによる「エタノールの次世代への影響」を見た実験の結果を紹介。脳・肺・肝・腎の各臓器とも発達の遅延が見られ、出産仔数の減少、離乳まで哺育した仔数の減少が見られた。

教育講演：アルコール健康教育のポイント

聖心女子大学教授 植田 誠治

これまで、知識・技能を習得する学習だったが、これからはそれらを活用して課題を解決する思考力・判断力・表現力が求められる。

その際、問題意識が高すぎて教えたい気持ちを欲張ってしまうと、生徒は消化不良を起こしてしまうので、「あれもこれも」から「これをこそ」にしぼり、小学校 中学校 高等学校と系統性を踏まえることが大事である。

実践報告と意見交換

小学校におけるアルコール健康教育の取り組み
東京都豊島区立椎名町小学校 養護教諭 出口 眞理子

小学校 6 年生の保健「病気の予防」では飲酒の害や喫煙の害についての指導がそれぞれ一時間あり、その後に薬物乱用の害についての指導を行っている。未成年者の飲酒が、成人よりも心身の健康に悪い影響を与えることや成人でも飲酒運転の禁止などの規制があることについて保健で学習することにより、飲酒の害について知らせていく。そして、児童が将来にわたって自分自身で健康管理ができるよう今後も保健の指導を充実させていきたい。

実践報告と意見交換

中学校におけるアルコール健康教育
春日部市立豊野中学校 養護教諭 金澤 千鶴

まず、事前アンケートにより、アルコールが身近な存在である事を確認。
授業としてはパッチテストを行い興味を引き付け、アルコールの害について、未成年者の成長と発達に大きなダメージを与えることを理解させる。
その後、ロールプレイングにより、お酒の上手な断り方を考える。

実践報告と意見交換

高等学校 保健の授業実践
東京都立中野工業高等学校 金澤 眞理子

飲酒経験者も多く、アルコールに寛容な家庭環境や社会環境がうかがえ、小学校・中学校・高等学校と連携した学校教育を柱にしながら、未成年の飲酒を減らす社会的な取り組みがますます必要である。

実践報告と意見交換

学校薬剤師と学校でのアルコールの害教育
一般社団法人東京都学校薬剤師会理事 亀崎 信明

小中高を通じての系統性が大事である。
イッキ飲みの危険性を伝える。
鳥の肝臓をアルコールに 30 分付ける実験が興味を引きつけるのによさそうだった。